

がんはわずかな知識の有無や行動によって、運命が変わる病気です。子どもの頃からがんを知っておくことが大切です。すでに紹介したように、中学校と高校の学習指導要領に「がん教育」が明記され、実際に授業が始まっています。今年度、中学校の保健体育の教科書にもがんのページが加わり、高校でも来年度から順次、授業が開始されます。

一方、学校でのがん教育など無縁だった今の大人の世代では、「がんを知る」機会はほとんどなかったはず。今後、大人へのがん教育が大きな課題となります。

私が議長を務める「がん対策推進企業アクション」は企業のなかでのがん対策を進め

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

ユーチューブでがんを学ぶ

ます。現在20本以上の動画が配信され、総再生数は約5万回に達しています。

「どうしてがんになるのか」「がんで命を落とさないためには」「がんは遺伝するのか」「働く世代のがん」など基礎的なことから「コロナ禍でのがん対策」「がん治療とお金」「市町村のがん検診と人間ドックの違い」などテーマごと

が、「娘に子宮頸がんワクチンを接種させた」など女性として、母としての目線から、鋭い質問を連発。がん専門医の私もたじたじになっていました。

毎月2回程度、新規動画をアップしています。各講座は1回3〜4分程度と、仕事の合間でも見られる短編です。もちろん、スマホでも視聴が可能になっています。

学校でのがん教育がスタートした今、取り残された大人たちのための無料の講座です。みなさま、ぜひご視聴ください。

お見逃しのないよう、チャンネル登録もよろしくお願います。

(東京大学特任教授)

る厚生労働省の国家プロジェクトです。職場でのがん検診の受診率アップ、がん治療と仕事との両立支援、そして、職場でのがん教育を3つの目標として掲げています。

本アクションでは、「オトナのがん教育」というテーマでユーチューブの公式チャンネル <https://www.ganken.shin50.mhlw.go.jp/movie/index.html> を開設してい

にわかりやすくお話ししています。最近ではがんのサバイバーである女優の生稲晃子さんとの対談シリーズも好評です。「女性のがんで気になること